

低学年 第2学年の授業づくり

研究授業前の 児童の姿

○場面ごとの登場人物の気持ちを読み取る活動は何度も行い、慣れてきている。
●朝の会にもスピーチの時間をとるなど、話をする場をたくさん設けてきたが、自分の気持ちを自信をもって伝えることに課題のある児童がいる。



研究授業 7月2日(水)

単元名 お話を読んで、お手紙を書こう
教材名 「スイミー」(光村図書 2年)

授業の工夫

- 1 物語の全体を通してスイミーの気持ちを追いながら学習を進める。
- 2 吹き出しを入れたワークシートを使い、言葉や挿絵に着目してスイミーの気持ちを考えられるようにした。
- 3 自分の考えを伝える場として、ペアでの伝え合いの時間を3回とり、できるだけたくさんの人に気持ちを伝えるようにする。

1 登場人物の気持ちを読み取る工夫

スイミーのお話を読み進めるときに、授業で読み取ったスイミーの気持ちを教室に掲示し、毎時間の始めに前時までの場面の様子や気持ちを振り返ることで、スイミーの気持ちの変化を読み取ることができるようにした。

2 ワークシートの工夫

場面ごとに、本文・挿絵・吹き出しが入ったワークシートを作り、ワークシートにサイドラインを引いたり、書き込みをしたりしながら気持ちを考えさせるようにした。児童は言葉に着目したり、挿絵にも注意を向けたりしながら、スイミーになりきって、吹き出しの中に気持ちを書き込むことができた。

3 自分の考えをたくさん発表する場の工夫

毎回の学習活動で、ペアの伝え合いを入れ、その後全体交流につなげていった。できるだけたくさん自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることで、いろいろな考えがあることに気付くよう、ペア活動を3回設定した。また、ペアでのやりとりの話型を提示し、よりスムーズに伝え合いができるようにした。友達との交流を深める中で「それいいね。」や「なるほどね。」などの声も上がり、自分の考えを友達に伝えるよさを感じている様子だった。



研究授業 成果と課題

☆これまで読み取ってきた気持ちを振り返り、つながりを意識しながらスイミーの気持ちを考えることができ、いろいろな考えが出てきた。

★全体交流での意見の集約の仕方を工夫する必要がある。

★児童がより「伝え合いたい。」と思う発問を考える必要があった。



研究成果報告会 授業のポイント

単元名 読んだお話をしようかいしよう
教材名 「スーホの白い馬」(光村図書 2年)

伝え合いを通していろいろなあらすじのまとめ方があることを友達と学び合い、自分がまとめたあらすじを振り返る授業